

見えないう仕事

小学校の教師をしていた頃、忘れられない思い出がある。家庭科で調理実習をしていて、後片づけの時である。

本来ならば、もちろんと重ねて棚に並べられてあるはずの食器が散在していた。

その時は、時間がのびーまーい、どの班もあわてて教室に戻っていった。

最後の班のある女の子が食器をどこにしまった時、何を思ったのか、散在していた食器を一つ一つ重ね合わせきれいに棚に並べ始めたのだ。

私は、その光景を見た時、この子はすごい子だと思った。

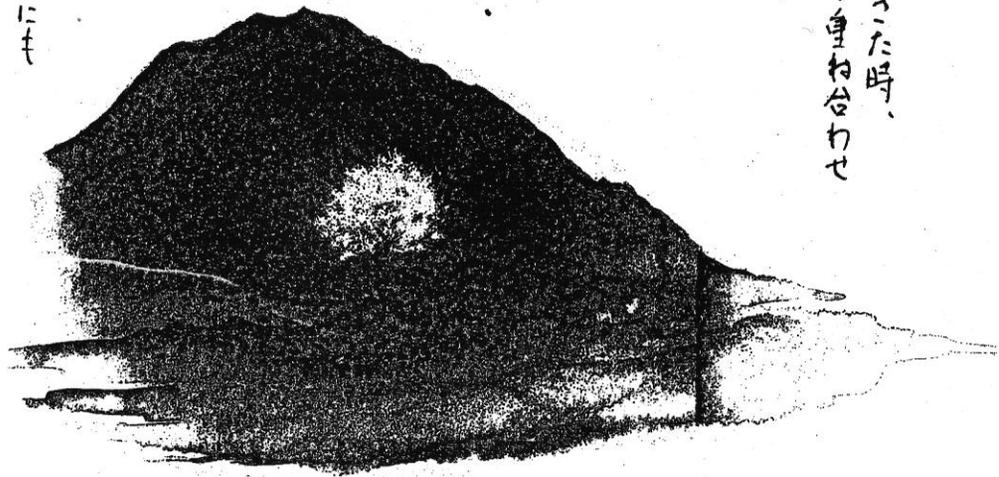
時間がなく、皆があわてている中であってそこに立ち止まれる心の在り方に身ぶるいした。

その女の子の行為はクラスの誰も知らない。こんな女の子を自分の嫁さんにしたかった。思った。

見えないう仕事は進んで行く
見える仕事はみんなで行う

それが自分や周りの人生を豊かにもし、喜ばせにもするのだ。

あれから三十五年
あの女の子は今、どのような人生を歩んでいるのだろうか。



子の髪のかみ
風に流るる
五月末の

大野林火

福三平
校長室
だより

ほたる草

平成二十八年五月二十七日(金)

NO.10)